



津波・古津波研究室



担当教員：西村裕一

重要な情報はすべて現場から！

今年の3月11日、東北地方でマグニチュード9の地震が発生し、大規模な津波により甚大な被害が引き起こされました。自然現象に対する私たちの知識や理解が足りなかったこともあり、災害を大きく軽減することはできませんでした。

今回のような災害を低頻度巨大災害といいます。そして自然現象の中には、起きる頻度が低くて**人間の歴史に記録されにくいものがある**のです。では、このような「未知」の現象にどう取り組むか。一つのアプローチは、地質学的、あるいは考古学的な調査を行うことです。

私たちの研究室では、津波が地表に残した痕跡を調べたり、それが地層中に残された様子を調査しています。最近起きた津波や古い時代に起きた津波の挙動を解明しようとするためです。

まずは現地調査。「情報はすべて現場にある」、そして、「自分の目で見たことこそが事実」と、私たちはいつも考えています。

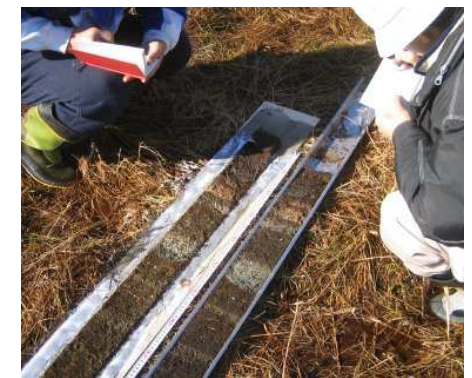


大地の下には、その土地が経験した地震や津波、火山灰の痕跡が記録されています。地層に残された自然の歴史を読み解くことが、私たちの研究テーマです。



注目しているのは津波がつくる地層。東北の津波でも、地表には砂や泥が残されてたまっていました。いろいろな分析を行うと、この砂や泥には海底の微生物や海岸の砂が含まれていることがわかります。津波がどんな経路で、どんな力を持って襲ってきたか、知る材料になるのです。

さあ、
一緒に掘ってみませんか？



地表に堆積した砂などは、条件が良ければ地層中に保存されます。掘って調べることができれば、私たちが知らなかった津波などの情報が得られるかもしれません。